

小曾根乾堂

泉  
賢  
司

十七代小曾根吉郎氏に十二代乾堂先生の話を伺っていると、百年前の日本、あるいはもっと昔の日本に吸い込まれるようで、乾堂先生が現在の日本を憂いて天から叫んでいるかのような気魄で、あたかも、乾堂先生が乗り移ったかのような錯覚を覚えた。又、明治維新の立役者である勝海舟や坂本竜馬と同じ、表には出ないが国家の為に、自分の全財産を賭け、命まで賭けた憂国の士を想うときに非常に感動を覚えた。私はこの憂国の士(小曾根乾堂)を研究することにより、明治の精神、日本の精神が少しでも究明出来ればと思い小曾根吉郎氏を長崎に訪ねて行きました。思っておせば初めて星堂先生、吉郎氏と出会ったのがちょうど十年前の春でした。

## 第一節 勝海舟と小曾根乾堂

**小曾根** 勝海舟は小曾根乾堂の「篆刻道」<sup>てんく</sup>の弟子でした。此れは新発見された事実です。

**泉** そうですか。十年前にお邪魔して、小曾根星堂先生に教えて頂いた頃には、まだ其のお話は伺はなかった様な気が致します。ところで、勝海舟の「篆刻道」と通説の関係あたりからお話ししていただませんか。

**小曾根** 勝海舟が長崎の小曾根を訪れた時に学んだものは、今までの学説では、オランダの軍法だけであったと云う点に終始しています。しかし、一番大事な事は、明治六年の政変がポイントだと思われまふ。明治六年の政変とは、アメリカ帰りの岩倉具視とか伊藤博文とか、いわゆる留学組と西郷隆盛を中心とする、いわゆる留守番組との対立であります。しかし、私は、西郷の征韓論に関する学界の定説は間違いだと思ひます。教科書の書き換え運動もやっていますが、仲々採用されるところまでは行き着きません。私の考えでは、「征韓論」と云う表現は、飽くまでも外務



第十二代 小曾根乾堂

省の官吏が創作したものです。西郷隆盛と勝海舟と小曾根乾堂の三人は日本国と中国と韓国の三国列強が協力してアジアの極東体制を守ることに依って、我が日本の安全を確保しようと考えたのであります。此の私の考えを支えてくれる傍証になるものに、勝海舟が西郷隆盛を悼む詩があります。勝海舟の自筆が、現在、小曾根家の家宝として保存されています。

勝海舟が各種の詩に使用している判に「物部義邦」と刻られたものがあります。此の判を初め、勝海舟が正式な書類に使用している判の大半は小曾根乾堂が刻ったものです。

勝海舟が南州翁を悼んだ詩

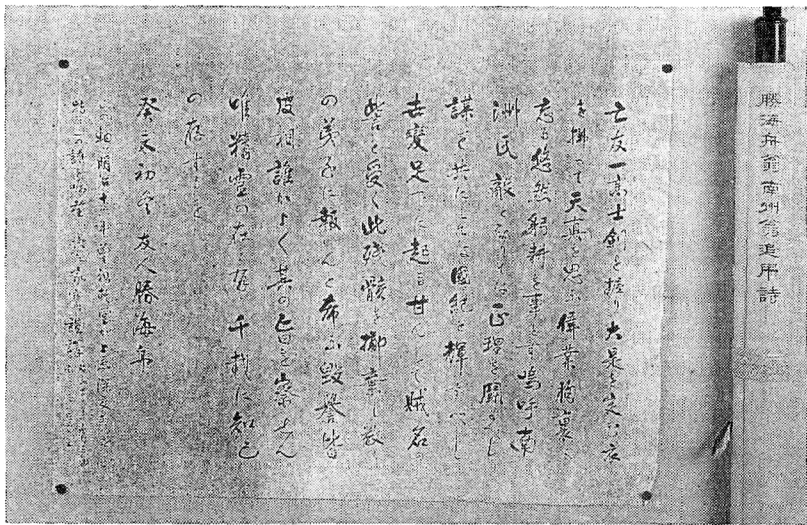
亡石一高士握劍定大志排衆思其真偉業未始衰  
 延我事於耕吟嘯而物氏為家う剛正理共謀う輝  
 國紀世愛起三六廿受城名譽擲弃外強弱希  
 執若才子即若此は相誰能察之旨唯々  
 於盡在千載存知也

勝海舟

五ノヤリ散人

印





小曾根星堂氏が解説した書

泉 それで、勝海舟の判はどこで見ることが出来ますか。

小曾根 出版物では、確か講談社から刊行された『勝海舟全集』に、其の写真が掲載されております。『印譜』の中にも、小曾根乾堂と勝海舟がそれぞれに自刻したものが、分類されて掲載されています。それにしても、勝海舟が方寸の世界に、「東洋の心」「日本の心」を刻り込む営みをしていたと云う事実は、彼が決してオランダ軍法の専門家であるだけではなく、東洋精神の基礎の上に西洋精神を学んだと云う点で、東西のバランスが取れている人物であつたと云う重要な結論を導き出すことが可能となります。

私は今日の日本人に、正しい日本精神を回復させる為に、幕末資料館を創設したいものだと考えております。

注：星堂氏によれば、この軸は明治十六年乾堂が上京した際に勝海舟より譲り受けたもので、家宝にしているものであると書かれています。

又、この軸の上に押されている印は、カンボ印と言わ

れ、勝海舟は三つ持っていましたが、この判コを代表的に海舟は好んだということです。又、これは、小曾根乾堂が作ってあげた判コです。

泉 其れは素晴らしいことです。出来る限り、御協力させて下さい。

小曾根 今の長崎市長は出鱈目な男で、日本の幕末維新の貴重な資料を破壊しようとしているんです。ひたすらキリスト教や創価学会や日蓮宗ばかりを大切にしている。自民党の連中もやきもきは為っているものの、今はリクルートで弱り果てて。だから、我々若者が頑張らないといけないんです。

泉 私達はあなたのお父さんのお陰で、武徳研究所の機関誌である『国土』の創刊号を刊行することが出来ました。其の最初の一冊が第二冊を呼び、第二冊目が第三冊目を呼ぶ。だから、或る運動を続ける場合には、薄いものでも良いから機関誌を刊行することです。―又、国土の表紙には、星堂氏（吉郎さんのお爺さん）に題字を書いていたきました。

小曾根 私は兎に角、「幕末資料館」を創設したいのです。日本人もそろそろ占領政策体制から脱却すべき時代に到達しています。原爆も大切でしょうが、私は原爆ドームの隣接地に「無名戦士の墓」を創設したいのです。

高橋 矢張り、先祖の血が騒ぐんですね。原爆ドームの隣に「無名戦士の墓」を建てて、国旗掲揚でもやったら、観光客達はあっち向いたりこっち向いたりするでしょうね。それにしても、長崎には土地が無いでしょう。

小曾根 いいえ、御坐居ます。原爆ドームの隣に、三菱セメントの大月文平氏の土地が空き地のままであります。私が大月氏にお願いしさえすれば、其れは可能です。勝海舟や坂本竜馬や岩崎弥太郎の資料も私の家に保存されていることを大月氏は良く御存知だからです。小曾根乾堂の残した貴重な文化財や不動産を現代の日本と未来の日本の為に

活用する様に努力するのが、私の役割だからです。

**高橋** 小曽根家の様に基本財産が有る場合には、財団法人を設立して保存する方が便利ですよ。

**小曽根** そうそう、十年前も其のお話になっていた三浦梅園の資料保存方式として用意されていた財団法人設立の爲の書類のコピーを頂いたのを覚えております。ところで、三浦梅園の方はどうなりましたか。

**高橋** 当時は、副総理の西村英一さんが全力投球し、元大蔵大臣の一万田尚登さんや、小野田セメントの安藤豊禄さんや、元大分市町の上田保さんが協力してくださったのですが、当時は、財団法人の新設が困難な上に梅園家の方にも財産争いがありまして、とうとう駄目になってしまいました。物事にはチャンスと云うものがありまして、梅園の資料は、やがて散佚していくしか道は残されていないでしょう。私も情熱を失いましたし梅園の孫弟子にあたる、東大創設時代に小石川植物園で牧野富太郎以前に活躍した賀来飛霞と云う植物学者の膨大な資料が大分県の片田舎の賀来家に眠ってしまして、賀来家の御当主も其の保存に御熱心ですし、大分県のエデュケーターを初め、担当課である文化課の連中も非常に熱心ですので、私の関心は完全に梅園から飛霞に移行してしまいました。残念ですがね……。

**小曽根** 私は、父の代に先生にお目にかかり、三浦梅園の保存方法のお話を伺いました。今の経過報告は、其の意味では大変興味深いものでした。しかし、今や小曽根家では私自身が当主ですし、祖父乾堂にかかわる資料の保存と顕彰に人生を賭けたいと思っていますので、御心配は御坐居ません。

私は、兎に角、「幕末資料館」を設立して、長崎を訪れた人々に、特に修学旅行の学生に見てもらいたいですよ。今の修学旅行生は、タバコを飲んだり、唯々ブラブラしているだけです。此れでは、何を学びに長崎まで来るのか、訳が解りませんからね。



遠仁者疏道  
不苦者有智

丁巳年

米青

星堂



泉 私も長崎の人間ですが、長崎については何も知らないに等しいですよ。本格的な「幕末資料館」が有って、其れが、例えば幕末維新のテレビドラマ等と連動して展示されると、私でも身近に感じますね。本当の学習です。

小曽根 此の掛け軸は何と読みますか……

高橋 仁ニ遠ザカル者ハ道ニ疎トシ。苦シマザル者ハ智アリ。

小曽根 漢文調ではそう訓みます。しかし当時の知識人は洒落を解さねば不合格です。「オニハソト、フクハウチ」  
「鬼は外、福は内」……

高橋 成る程、参りました。幕末維新の人々は、此の手の知的遊戯をよくやりますね。巧く出来ていますよ。一方が「漢文」で一方が「日本語」になっている。

泉 「オニハソト、フクハウチ」と云う読み方は誰から習ったのですか。

小曽根 代々に伝わったものです。

泉 誰の作品ですか。

小曽根 星堂です。此の時、星堂は米寿です。私の祖父に当たります。星堂が生まれて百年目の明治二二年に、伊藤博文が「星堂生誕百年」を記念して明治憲法を發布したのです。其の百年前がフランス革命で……。今年はフランス革命二百年記念と騒いでいますが、明治憲法発布百周年記念の方はどうする積もりですかねえ。

泉 此の酔古（スイコ）と云うのは誰のことですか

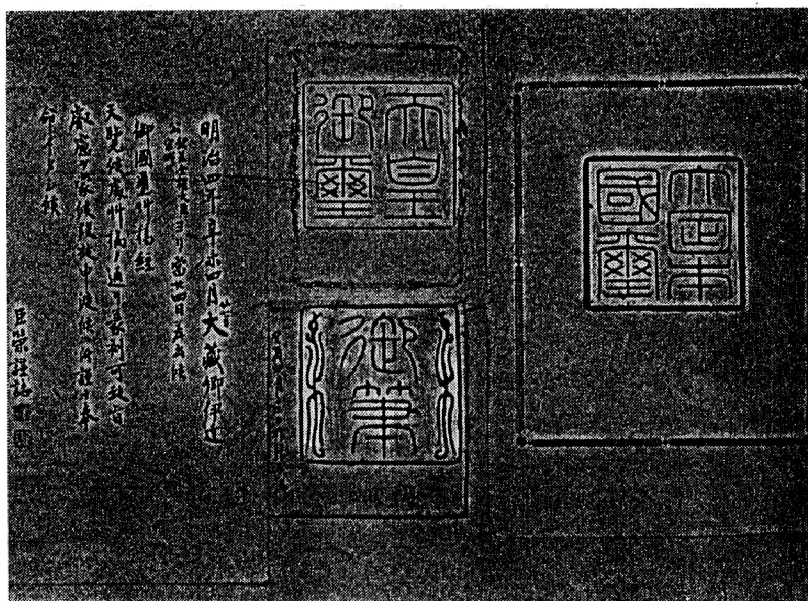
小曽根 小曽根乾堂の子供で、小曽根辰太郎です。親子で「大日本国璽」を純金で作成して献納しようと企てた人です。「天皇国璽」の「国」の字の国構えの中が「或」ではなく「正」だったのですか、

泉 此の時の小曾根乾堂の「建白書」が、十年前の『国士』の創刊号に掲載されている高橋先生の此の写真ですね。

小曾根 これは、乾堂が追請した時のものです。

注(1) 実は、日の丸が日本の国旗だと制定されたのは明治三年の正月二十日、太政官布告で制定されたのであります。これと相い前後して、小曾根乾堂が「国璽御改刻」の建白書を提出しているのであります。その第一号の建白書は、という訳か「国立公文書館」にもまだ見当たらないのであります。明治三年というと、まだ維新政府もウロウロしていた様で、資料の保存にまでは手が回らなかったのかもしれませんが、しかし、明治六年からの建白書は、『諸建白書』という題名の貼られた立派な書物の体裁に仕立てられて残っているのであります。

注(2) 小曾根吉郎氏の説明によりますと現在の御璽は、安部井レキドウと云う人が小曾根乾堂の判をもとにして作ったのですが、乾堂は中国の古字の中から選び出し、口がまえの中に正しいという字を入れた。これは日の元の国ということで、正しい国という事と、又、正しいとは数字の五でありますから、一から十までの真中、つまり



中心であるという意味もあってこの正を入れたんじゃないかと説明しています。

又、天皇御璽の方は、白に王と書きますが、旧態古字からすると王の字の上の二本がつまっているということです。現在の王は三本とも同じ間隔になっています。

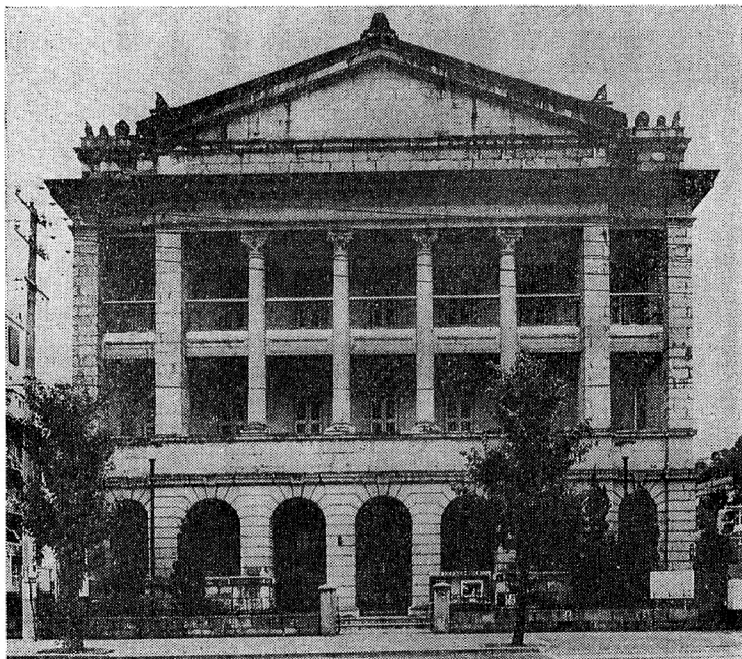
**高橋** 「国立公文書館」の資料は、実は私が発見したものののですが、其の後、貴重図書に指定されて、発見者であり評価者である私にさえ中々見せてくれなくなって困ってしまいました。官僚の手に係ると良し悪しです。

**小曾根** 「国立公文書館」には、私も一度は見に行きたいと思っています。東京に保存されている資料の写真なども揃えて「日本起こし」と「長崎起こし」に努力して行きたいと思っています。これこそ日本民族の精神運動の基本ですから・・・

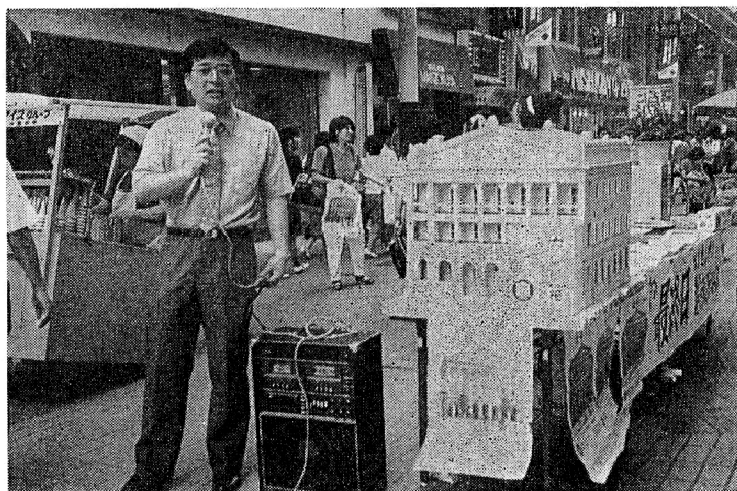
**高橋** 十年前に国士館が、「武道徳育研究所」を設立したのも、其の様な精神運動の基地にする為でした。以来、中々所期の目標までに到達しないのですが、十周年を迎えるに当たって、改めて「長崎から……」と云う事で、泉先生は長崎人でもあるし、初めて小曾根家を訪問した三人（高橋・野木・泉）の内の一人でもあると云う御縁で、小曾根乾堂と其の周辺の人々の研究をしたいと云うことになったのです。

**小曾根** 其れは有り難いことです。将にタイミングが熟してきた訳ですよ。十年前は、私も御同席し、車であちこちと御案内も致しましたが、未だ父の時代で、私は未熟でした。五年前でも三年前でも、私には未だ精神的な態勢が整ってはいませんでした。今になって、私は改めて文化を守ることに人生を賭ける意味を自覚してきました。

特に香港上海銀行を解体して国際交流会館を建てるという長崎の、県知事と市長に勝利したことは、私に私の人生の目的を明確にさせる契機となりました。長崎県と長崎市は此の由緒ある建築物を破壊する事を決定していました。し



（市の文化財として認められた旧香港上海銀行）



旧香港上海銀行を守る為熱弁をふるう会長（小曾根吉郎氏）



かし、私が反対運動の事務局になりました、勿論多くの私財も費やしましたが、保存することに改心させたのです。

泉 高橋先生の主張している陽明学的な文化運動ですね。

高橋 それにしても、小曽根家を無視して、長崎の文化財保護が出来るとも考えているんですかねえ。

小曽根 父の後を継いだ私が余りにも若いもんですから、馬鹿にしていた訳ですよ。父は皆さんのお世話も良くしていましたし、仲間も沢山いましたので、余り力まずに自分の意思を達成できた様です。私は全くのところ子供扱いにされていました。しかし、「香港上海銀行」の保存運動では、県議会も市議会も、子供扱いにしていた私から、いわば一本背負いを食らってひっくり返ってしまったんですから、こんな前例は無かったもんですから、相当にショックだった様です。

高橋 時代も我々にとっては追い風が吹き初めましたよ。竹下総理の「故郷創成論」がそれです。全国の市町村に均等に「一億円」を配ることを、学者文化人の大半は馬鹿にし、せせら笑う様な評論が、テレビや新聞や雑誌で跳梁しているけど、それでは、或は過疎化し、或は荒廃し行く町や村を逆方向に進める努力をしたことも、或は滅び行く文化遺産を守る為に、彼らは爪の垢程でもお金を出して其れをやってみたかと云えば、口先だけです。私が、例えば賀来飛霞の資料を保存することに加勢して欲しいと云えば、昔の大分県の文化課長は、此の人は後に県の教育長にま でなった人ですが、「安心院にはスッポン亀しかいないぜ」と云って、私を馬鹿にしたものです。私に云わせれば、本当に「過堀化し、荒廃している」のは、こんな教育長達の「頭の中」ですよ。だからこそ、たった一億円の有効な使い道が見えなくて困っている訳ですよ。

小曽根 そうですね、ばらまきの「一億円」、長崎地方にもどんどん来ているのですが、専ら、「洋風」の方にばかり

使っています。長崎は決して「西洋」のメッカでは無いんですよ。東洋文化のメッカでもあります。「和風」を忘れてもらっては困ります。最も大切なのは、実は、「東西のバランス」ですよ。

## 第二節 ユダヤの秘話

**小曾根** あの向こうに見えるお堀り端にある第一生命のビルの横のビルでは、嘗てユダヤ人が香港ドルを印刷していたと云う話が残っています。私は此の研究もしてみたいと思っております。其の為に、グラバーリンガーや坂本竜馬もフリーメンソンであると云う人もいます。一八四七年の阿片戦争以来、日本人は中国人から西洋の野心に付いて、直接的な警告と教育を長崎で受けます。日韓中の三国が列強の干渉で極東の安全を脅かそうとします。此の時代に、グラバーリンガーがどの様な態度を採ったかは、実に興味深い問題です。もともとグラバーリンガーはシャデンマルソンと云うホワイトホースを仕入れていた会社から派遣されてきた訳ですから、此の辺の研究も大切です。

ラビトケイヤーと云う人がいます。此の人は長崎のユダヤ教会に保存されていたフランシスコザエル愛蔵の聖書にキスを秘げた男です。此の聖書は、現在、世田谷のユダヤ協会に秘宝として保存されているそうです。大正四年八月九月一五日に開催されたユダヤの祈禱祭には、歌人の斎藤茂吉が京大の武藤教授と一緒に参加しております。斎藤茂吉の子供の茂太さんが四才の時に大浦の洋館で初めて洋食を食べたと云うのも香港上海銀行の隣にあった長崎ホテルでした。其の様な施設を再建させようと云う人々がゴチャゴチャと動いていますが、此の運動は、要するに観光客を釣り上げて金もうけの為の企画なんですよ。（小曾根家の窓から指をさして）あの一帯がロシヤ部落で、そこにロシヤ

聖教会があったんです現在の海洋气象台がロシア聖教会の跡です。

グラバー邸の下のだ……。グラバー邸と云えば、三菱の外人社宅に、トーマスグラバーの一人息子のグラバー富三郎と云う人がいました。ドイツのお金で購入したので、ドイツ領事館の分も手に入れました。そこで、昭和一五年から、富三郎は香港上海銀行の三階で見張りをしてスパイ活動をしていたのです。其の為に、富三郎は陸軍や特高にいいめられたと云う話が残っています。此の事は、グラバーリンガーがユダヤの指令でど程度まで動いていたのか否かと云う点で今後の研究課題になります。

例えば、日露戦争の前夜、イギリスはスエズ運河を固めてしまっています。誼戦布告をしない限り、バルチック艦隊を通過させないと云うのが、当時のイギリスの立場だったのです。バルチック艦隊はやむなく、遠くアフリカを迂回します。其の間に、（日本はイギリスから4隻の軍艦を買い本当の目的を達成し）此の四隻だけはスエズ運河を通過させ、対島沖でアフリカ沖を迂回したバルチック艦隊の本隊の到着するまで待機させます。しかし、東郷平八郎は明治三年から五年まで、イギリスの海兵で勉強していたのですから、其の経歴が此の時大いに役に立つ訳です。

泉 私は先程から驚いているのですが、お父さんの跡を継いで下さって以後の御研究の成果は素晴らしいですね。ユダヤの問題は私はズブの素人ですから……

小曾根 此の間に、全てユダヤの指令が有った。もしも、そう考えれば日本がバルチック艦隊を壊滅できた理由が理解できます。普通の歴史書は全く出鱈目ですよ。勿論、平和な時代には出鱈目な歴史書を読んでも構いません。しかし、非常時の時代には、其れでは困ります。マッカーサーの占領政策の指導下に書かれた「文部省御推奨」の教科書で、現在日本が遭遇している国際的な難問の答えを見付け出そうなんて考えていたら、それこそ日本の未来は暗

黒ですよ。

泉 どうして小曽根さんは、そんなにユダヤに詳しいのですか。

小曽根 私の祖父が、実はユダヤ研究の第一人者だったんです。

高橋 十年前の私共は、武徳研究所の基礎作りの為に、「忘れられた国土」の発掘の為に全国を歩いて、小曽根乾堂の様な「国土」の発掘と研究と顕彰にだけ夢中になっていたものですから、ユダヤの話にまでは行き着かなかったのですね。

小曽根 「忘れられた国土」の発掘と研究と顕彰は、今後も続けるのですか。

高橋 「昭和の時代」が終わり、「平成の時代」が始まった今こそ、其れが最も必要な時代だともいいます。泉先生も其の意味が最近ひどく気になり始め、今回、改めて小曽根乾堂から本格的に調査研究する気になった訳です。

小曽根 其れは有り難い事です。今は、特に定年になった人が、自分の今迄の人生が何であったのか、今から一体何をして生きていったら良いのか、「迷いの時代」に突入してしまっています。退職金は貰ったものの、有意義な使い方に悩んでいます。高齢化社会の中で、例えば五五才から六十才の間に、突然、長い間の通勤生活から開放されて、八十才くらい迄生きた場合、財産や生活費の豊かな人々、つまり、日本の指導的な立場に有るべき人達が、人生の目的を失う訳です。自分が歩いて来た「道」の途中で、フト迷いが生じた時には、原点に立ち帰って見る必要があります。リクルート事件の為に、自民党はガタガタになり、総辞職か？とか、暫定政権か？とか騒がれていますが、「教科書の歴史」では無く、「生きた歴史」を研究すれば、此の様な混乱の時代の解決法も自然に見つかるものです。「歴史」が再び重要になってくるんですよ。

泉 「忘れられた国土」を思い起こす時代が、急速に到来してきた訳ですね。

### 第三節 新しい文化財保存方式

高橋 今は考古学ブームです。此れは非常に限定された資料で、頭の悪い学者文化人が嘘出鱈目を云ったり書いたりしても、誰も文句を云わないからです。ところが、江戸時代や幕末維新ともなると、まだまだ資料は山程ある。此れは、頭の悪い怠け者の学者文化人には迷惑らしいんです。ですから、彼らは其れらの資料が自分の手に負える程度までに減びてしまうことを願っているんですよ。しかし、考古学的な遺物は土の下から掘りださなければ、其れが一番良い保存方法なのにここ掘れワンワンと掘りまくる。言い換えれば文化財を必死で破壊している。其れに比べて江戸時代や幕末維新の文化財は、特に紙に書かれた物や壊れ易い物は日に日に、いや、一秒一秒と破壊され、失われて行く。全くもったいない話ですよ。「一億円」も有れば、此の種の失われ行く民族の宝を滅亡から救うことなどいとも簡単にできますよ。しかし、私には「一億円」を使う権利がありませんからね。

小曾根 先生、私は、長崎の物でしたら全部、無料で集めることが出来ます。

泉 どの様な方法ですか？

小曾根 私には、未だ祖先から残された広い土地が有ります。そこに、文化財を預かる倉庫を建てて、文化財の保護預かり業をする。現在は、どんなお金持ちでも、自宅やマンションで自己管理することが不可能になっております。

そこで、三菱倉庫じゃありませんが、それらの「家宝」、それは同時に「民族の宝」であり、「人類の宝」でもあります。

すが、其れをお預かりして、……

泉 成る程、確かに現在の様に住宅事情が悪くなると、保管場所に困りますね。

高橋 それに、臆ろげには、祖先の大切な物だと理解していても、専門的な知識が無いばかりに、宝の持ち腐れになって、結果的には粗末にされたり、破壊されたり、失われたりする。

小曽根 ですから、私が構想している文化財の保存方法は、三菱倉庫の様な「文化財管理倉庫」にお預かりして、調査して、リストを作成して、所有者にも報告書を出すんですよ。今、日本では、「家宝」の中でも価値のある物が有ると、公共団体とか博物館などは、直ぐに、「寄付してくれ」でしょう。「買取る予算が無い」だとか、こうだとか云って……。そして、寄付を拒むと、今度は、財産税をポンポンと取っていく。

橋高 小曽根さんも相当残酷な目に会ったんですね。そうでないと、そこ迄は云えませんよ。現在の地方公共団体はだから、私は「家宝」ドロボーだと定義するんです。小曽根さんの「文化財保存方式」は実に素晴らしい。……

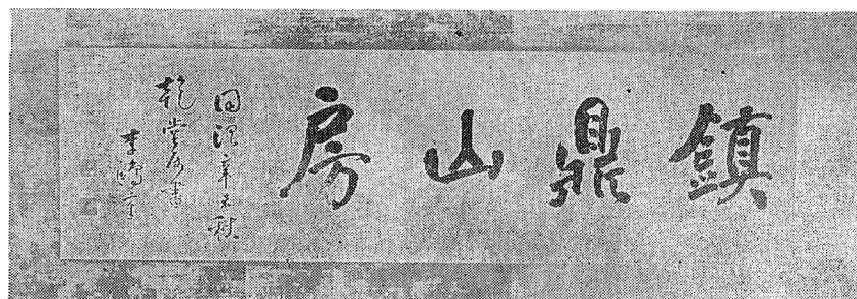
泉 高齢化社会の対策にもなりますね。人生の終わりに、自分達の祖先の残した貴重な財産を調査し、研究し報告書を作る。其れもボランティアで……

小曽根 そして、調査し、研究した結果は、報告書を作成して、其の内容をフィードバックしてあげる。

#### 小曽根吉郎氏解説

チンティサンボウと書かれている。この書は、明治四年の秋、小曽根乾堂が李鴻章リウウシヤウに書いてもらった書である。

縣アガタマキを鎮める山、防ボウとは小さな部屋ということ。伊達宗成侯が日清修好条約を締結に全權大使で中国に行く途中（この時、乾堂は書記官と通訳で行ったわけですが）その時、船の上で李鴻章が乾堂に長崎の山々を見わたして、あの山



は何という名前かと聞かれた、乾堂は鍋冠山<sup>ナベカムリヤマ</sup>と答えた。それはおかしな名前だから、鎮鼎山と付けなさいと云われたということです。そして、李鴻章が、その鍋冠山を船室で眺めて書いたのがこの書だとのことである。

(注) 勝海舟は『氷川清話』の中で、古今の人物の批評をしています。その中で李鴻章のことを、李鴻章は、なかなか食えないおやじだ。彼が先生小山六之助に狙撃せられたときも、痛いとも、かゆいとも何とも感ぜぬふうで、自国の医者がちゃんとしているにもかかわらず、いわば敵国の医者を受けて少しも疑わなかったところなどは、さすがは李鴻章だ。どこに底があるのやらちよつとわからない男さ。と批評している。